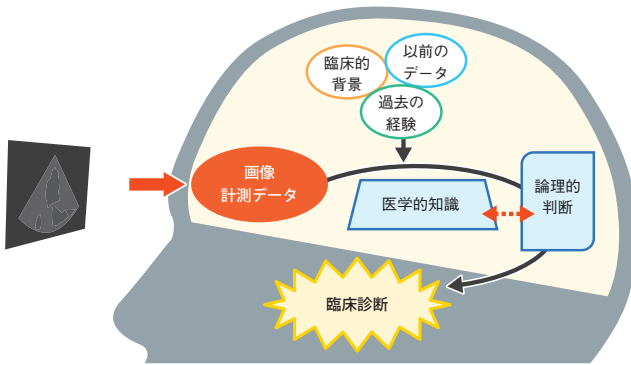


はじめに

～この本を手にとられた皆さんへ～

以前に上梓させていただきました『そうだったのか！絶対わかる心エコー』は、私の中では「心エコーのサバイバルマニュアル」をテーマとしていました。心エコーの密林で迷いそうになったときに、初心者の方でもこれだけ知っていたら生き延びられる、そんな本を目指しました。幸いにも皆様方にあたたかく迎え入れていただくことができ、本当に感謝しております。

本書のお話を羊土社からいただいたときに、心エコーの基本的な計測ができるようになった方々のステップアップのお手伝いとなる本を、と考えました。ただ「ステップアップ」といってもさまざまな道筋があり、どの方向で進めるべきかいろいろと考えてみました。そこで思いついたのが「考える心エコー」ということです。実は、計測されるデータは初心者でもベテランでもあまり違いはありません。ベテランのベテランたる所以はそのデータを組み合わせて病気の実態にどれだけ迫ることができるかということだと思います。本書は「胸痛」と



筆者の脳内マッピング

「心不全」というよく出合う病状を、心エコーでどのように診断していくかという思考のプロセスに重点を置いてみました。どうしても筆者の診断プロセスということになってしまいますので、本書は筆者の「脳内マッピング」を公開する本ともいえます。

前書は各項目を「クックブック」のように単独で引いてもらえるように作成しました。本書は診断の流れを考えるという面がありますので、ある程度通読してもらえればありがたいと思います。初学者の方の便も考えて、基礎的な項目をあえて詳解しているところもありますので、ご存知の内容は適当に飛ばしていただくのがよろしいかと思えます。

本書の作成には前回に引き続き羊土社編集部の鈴木美奈子様、溝井レナ様には大変お世話になりました。この場を借りましてお礼を申し上げますとともに、入稿が毎回とてもおそくなりご迷惑をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。

読者の皆様からはお気づきの点をどしどしご指摘いただければと思っています。もし本書が皆様方のスキルアップに少しでもお役に立てば望外の幸せであります。

2019年3月

桜橋渡辺病院 心臓・血管センター センター長
岩倉克臣